

# 大館圏域産業祭

# 4年ぶりに開催へ

## 22、23日 企業展示などリニョーアル

「地域の活力を未来へ」をコンセプトに第24回大館圏域産業祭が22、23の2日間、大館市のニプロハチ公ドームで開かれる。新型コロナウイルスなどで休止が続き、2018年度以来4年ぶり。密を避けた会場レイアウトで感染防止対策を徹底するほか、地元企業の展示ブースやステージイベントなどを充実させた。

# 商、工、農、教育が一堂に

市や大館商工会議所などでつくる運営委員会（委員長・福原淳嗣市長）の主催。19年度は県種苗交換会の市内開催で見送り、20、21年度はコロナ禍を理由に中止していた。最終日は午後3時まで。企業展示や物販、飲食コーナー、産業教育展、農業展、ステージイベントを予定。初日は午前10時から午後4時まで。出展27事業者のうち、半

数が初参加。新車の展示、小型無人機「ドローン」紹介、遺影用写真撮影など、これまでにない出展内容を見学できそうだ。

物販コーナーには漬物や冷凍豆腐、乳製品、乾燥食肉、弁当など食品関係をはじめ、布製品や洋裁用品、曲げわっぱを販売する20事業者が参加予定。飲食コーナーは焼き鳥、麺類、軽食、菓子、コーヒーなどの11事業者が並ぶ。その場で食べられるスペースをアリーナ内に確保した。代わりに、スタンド席には立ち

入れない。

もう一つの目玉となる産業教育展やステージイベントは子どもたちの体験活動、発表に重点を置いた内容。小中学校や秋田職業能力開発短大、比内支援学校、秋田看護福祉大、鷹巣技術専門学校など18団体が出展。ステージでは大館桂桜高恒例のフアッシュンション、サークル発表、歌謡ショーなどが繰り広げられる。農業展は▽農林産物共進会▽学校農園展▽野菜の重さ当てクイズ▽宮農相談▽特産物直売ーなどを予定している。新型コロナウイルスの感染防止対策として、会場は入り口を1カ所に限定。来場者の検温や手指消毒を徹底する。来場者数を常時5000人以内とし、展示ブースの配置間隔を広めに取るなど、密を避けながら来場者に楽しんでもらうという。